

# 九州・アジア/中国ビジネス研究会

## 第95回研究会開催案内

**日時：平成26年12月19日(金) 18:30 — 20:30**

**場所：** エルガーラ・オフィス棟 6階601-2号室 久留米大学福岡サテライト教室  
福岡・中央区天神1-4-2 大丸エルガーラ東館 TEL：092-737-3111  
(エルガーラ・オフィス棟は天神・大丸エルガーラ東館と国体道路沿いで隣接するビルです)

**講師：近畿大学産業理工学部経営ビジネス学科 准教授 飯島 高雄 氏**

**略歴：**1969年東京生まれ。慶應義塾大学経済学部卒業。博士(経済学)(慶應義塾大学)。慶應義塾大学21世紀COEプロジェクト研究員(PD)、高崎経済大学経済学部非常勤講師、金融庁金融研究研修センター研究員等を経て、2008年から現職。飯塚市で行財政改革推進委員会委員、再生可能エネルギー導入検討委員会委員を務める。専門は、アジア経済論(韓国経済)、金融論。主な著書に『日韓経済システムの比較制度分析(共著)』(日本経済新聞社)、『韓国「構造改革」の理論分析』(財団法人三菱経済研究所)などがある。

### **テーマ：韓国のコンテンツ産業育成政策～産業構造転換からの評価**

**概要：**韓国のコンテンツ産業は、映画・テレビドラマ・音楽を中心に世界各国に「韓流ブーム」を巻き起こした。この世界的な「韓流ブーム」は各コンテンツの質の高さに由来するものであるが、その背景として韓国政府のコンテンツ産業育成政策も看過することはできない。

韓国は1996年にOECDに加盟し先進国入りを果たしたものの、1997年には通貨危機を経験するなど、従来の経済発展パターンの限界が表面化するようになっていた。人口動態の側面でも、少子高齢化は日本を上回るスピードで進展しており、2030年頃から人口は減少に転ずると予測されるなど、1人当たりの生産性向上が求められるようになっていた。こうした状況を鑑み、韓国政府はそれまでの製造業主導の産業構造を付加価値の高い知識・ソフト産業へと転換することを目指し、IT化を推進するとともにコンテンツ産業の育成を図るようになった。

本報告では、韓国政府がコンテンツ産業を育成するに至った背景、育成政策の内容、コンテンツ産業の経済効果などを整理したうえで、コンテンツ産業育成政策を産業構造転換という視点から評価することとしたい。

**会費：**参加ご希望の方は以下に申込み、登録の上、当日会場入り口にて参加費1000円をお支払いください。

申込み先：(株)アジアソリューション・中山芳美 宛

電話：092-741-9338 E-mail：yoshimi@asol.ne.jp

九州・アジア/中国ビジネス研究会

主催：一般社団法人九州・アジアビジネス連携協議会

共催：近畿大学産業理工学部・アジアビジネス研究会